

平成27年（2015年）は、普照院が兵庫の地に建立されてから650年になります

お墓も引越す時代です

今年のお盆中にふと感じたのですが、「お墓の引越し」に関する番組が例年以上に放送されていたように思いました。それは少子化や都市圏一極集中が進む日本で生活する人々にとって、近年特に切実な問題となってきたからなのだと推測します。しかしお墓の引越しと言っても、いったいどのような問題があるのでしょうか。今回はそのことについて簡単にお話したいと思います。

お墓の引越しのことを正式には「改葬」と言いますが、それには①「お骨のみを移す場合」と②「墓石も同時に移す場合」があります。そのどちらにも行政手続きが必要ですが、それは意外と簡単で、移転元の役場（当寺院墓園の場合は神戸市）で『改葬許可申請書』を取得し、墓地の管理者（当寺院墓園の場合は普照院）に署名・押印をもらい、新しい移転先の『受け入れ証明書』などを併せて提出すると『改葬許可証』が発行されますので、後は使用していた区画を更地に戻して完了です。当寺院の場合、ここでよく問題になる（お盆のテレビなどでも毎回大きく取り上げられていた）お寺への離壇料などは必要ありませんから、お墓の引越しに必要な経費は、**墓石の移動費や撤去費用**そして**お墓の魂抜法要**のお布施などになります。



また当寺院墓園においてよくあるご相談で、すでに県外に在住しているが再び転勤などで今後どこに行くか分からないので一緒に引越しさせてもキリが無い、またご高齢のためお墓の維持管理が不可能だという事などで、最近では同じ墓園内にある当寺院永代供養塔に引越しされる方が増えています。ちなみに当寺院墓園の利用者が区画返納し、さらに墓園内にある当寺院永代供養塔へ納骨を希望される場合は、**納骨布施をいただいております**。その他様々なケースがあると思いますが、他の墓園での維持管理の問題や撤去費用のご心配等も含め、お墓に関するあらゆる事に関していつでもお寺にご相談いただければと思います。他の寺院の檀信徒さんや宗教が違っていても構いません。今、日本の先祖供養の諸事情は大きな変革期に差し掛かっています。皆さんが感じていることは、他の方も同様にお考えであったりしますので、いつでもご遠慮なくお電話いただければと思います。



歳末・お正月には、菩提寺のご本尊様とご先祖様へ感謝とご挨拶のために、
お寺・お墓へ家族そろってお詣り下さい。

普照院動物供養墓のご案内



実は、当寺院が移転復興した時から境内に動物供養墓がございました。いつ皆さんにお伝えしようかと思いつながら、早4年が過ぎてしまいました。

お骨にしてお参りしていただくことが原則ですが、ペットによってその大きさも様々だと思いますし、収骨状況でも変わってきますので、納骨布施は1万円~のご志納とさせていただきます。

納骨の際にはご回向させていただいておりますので、お寺へお越しの際には、必ず事前にご連絡をお願い致します。また、当寺院の檀家さん以外のペットでも構いませんので、お友達等でも納骨先が無く困っておられる方がいらっしゃいましたら、どうぞご相談下さい。

【平成27年のお寺行事（3月まで）】*4月以降は次号にてご案内させていただきます。

月	日	行事	内容
1月	1~3日	修正会	お正月の初詣の帰りには、是非ご先祖様にも新年のご挨拶にお寺へお越し下さい。
2月	15日	涅槃会・浄焚供養 (非公開行事)	お釈迦様の遺徳をしのびつつ、涅槃会とあわせてお焚き上げ供養を行います。
3月	21日	春彼岸墓参	午前中、舞子墓園普照院墓地にて。
	24日	春彼岸塔婆供養会	午後2時より、本堂にて。

★変更等がある場合は、後日ご連絡させていただきますので、ご容赦下さいませ。

***お焚き上げ供養に関して、お家にお供養するものがございましたらご連絡下さい。
宗教・宗派不問でお受付しております。**

〔編集後記〕

秋の彼岸が始まる直前に神戸市長田区で起きたあまりにも悲惨な事件、その後の御嶽山での火山災害、各地で続発するドラッグ問題など、ここ最近将来が不安になるようなことばかりが報道されています。そして世界に目を向けてみてもアラブ中東情勢の不安定さが増し、西アフリカ地方からのエボラ出血熱が徐々に蔓延しつつあります。それでも私たちは前を向いて歩み続けなければなりません。そのためにも来年は良い年であることを、皆様と共に祈りたいと思います。

合掌

発行：[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町4-1-29

電話・ファックス 078-671-1787 ホームページ <http://fusyoin.com/>

● facebook ページ『普照院』、随時投稿中です。 



これからは、お寺もどんどん情報を発信します。

とくに次世代をになう、若い方々・お子様たちに教えてあげて下さい。